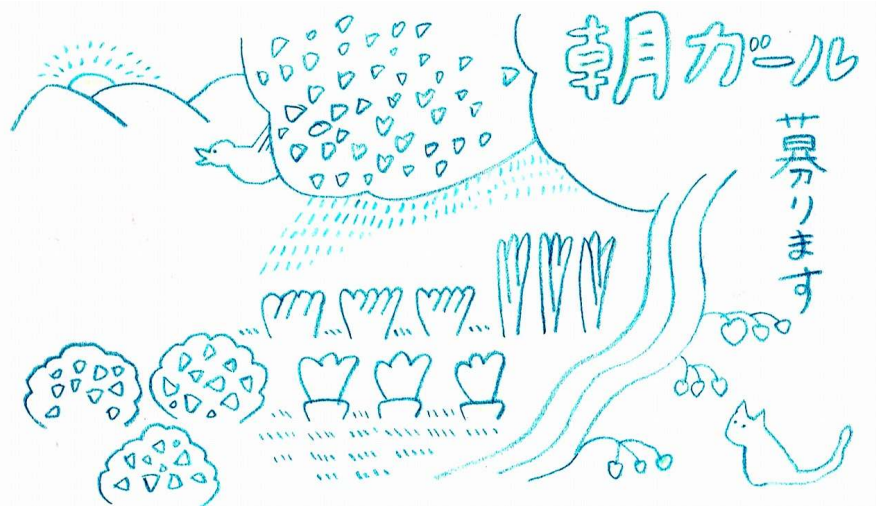


とても秋らしい秋

夫の髭が一部「涼しく」なったからか、さわやかな秋が続いています。こんなに気温が低めに推移すると、遅く蒔いた白菜などは、「開き菜」(結球しないで終わる)になってしまわないかと心配になります。また、こんなに順調に秋が深まると、野菜の値段が暴落するかなあ、と、家の裏の大きな畑一面に、近所の担い手農家さんが機械を使って作付けた、ブロッコリーやキャベツの海原を見て、思ったりもします。うちとしては、夏に日照りがなかったからか、最強害虫のヨトウムシの発生がいまのところ少ないので、助かってます。

さて、唐突ですが、夫の文章を、娘が絵を添えて書いてくれました。



朝見ておくれ、世界の不思議

待ちに待った朝だから

おこがれ、旅立ち、漁気々と

一世一代、産屋し装い

一番しほりのかぐわしさ、立会い、見吹に身をさらす

夕市をなくしたあなたさえ

ほらねほらねあら不思議

朝があるよと、伝えたい

さあさしすかに、お立会い

朝なればこそ夜を知る、午掛り、二ん跡をこかしこ

露と消えゆく北月中から、夜の素顔は、成程ねー

闇と言えどもほほ半日、何も起ころぬ竹もなし

休まず正しく用意した、朝があるよと、伝えたい

闇に魅入られもんものの

あなたにこそふさわしい

入ら日の始めにふさわしい

朝があるよと、と書いてごらん

性別・年齢不問です。眼目は、開かれた朝の畑で、それぞれが思い思いのひと時を過ごすことです。つまり、私たちは、あいさつを交わすだけかもしれないし、収穫を手伝う方がいてもいいのです。制約なし、約束は個別に、という具合。一風変えてみませんか。どうぞお気軽に。(9月22日)

